

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化予定箇所）

担当課：有料道路課
担当課長名：木村 昌司

路線名	常磐自動車道 しんちやまもと 新地～山元	事業区分	高速自動車 国 道	事業主体	東日本高速道路(株)
起終点	自：福島県相馬郡新地町 至：宮城県巨野郡山元町			延長	16km
事業概要					
常磐自動車道は、川口市を起点として、三郷市、水戸市、いわき市及び相馬市を經由して仙台市に至る延長352kmの高速自動車国道である。埼玉県、千葉県、茨城県、福島県、宮城県の5県の内陸部及び太平洋沿いの主要都市を結ぶとともに、東北自動車道、東関東自動車道、北関東自動車道、磐越自動車道、東北中央自動車道と接続することから、北関東、南東北地域相互の高規格道路網を形成し、経済・産業・文化の発展、広域的な連携による地域の自立の促進並びに活力ある地域社会の形成に欠くことのできない根幹的な基盤施設である。					
事業の目的、必要性					
新地町～山元町間は、並行する一般国道6号とのダブルリンクによる道路交通の信頼性の向上、一般国道6号の混雑緩和・地域環境改善及び沿道地域の活性化に寄与する重要な区間であり、社会経済活動の発展を大きく促進するものである。					
全体事業費	467億円		計画交通量	6,800台/日	
費用対効果 分析結果	B/C	総費用 413億円 （事業費：369億円 維持修繕費：44億円）	総便益	1,125億円 （走行時間短縮便益：962億円 走行経費減少便益：137億円 交通事故減少便益：26億円）	
	2.7			基準年 平成17年	
感度分析の結果					
交通量変動：B/C=3.6(交通量+10%) B/C=2.1(交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.5(事業費+10%) B/C=3.0(事業費-10%) 割引率変動：B/C=2.4(割引率+1%) B/C=3.2(割引率-1%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 指標2（新幹線・空港へのアクセスが向上する） →円滑なモビリティの確保（新幹線駅へのアクセス向上が見込まれる（相馬市⇄仙台駅）、第二種空港へのアクセス向上が見込まれる（相馬市⇄仙台空港）） 指標3（高次医療施設までの搬送時間が短縮される） →安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる（相馬市⇄国立仙台病院）） 指標4（拠点都市間を連絡し、相互の連携が図られる） →国土・地域ネットワークの構築（当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する（いわき市⇄仙台市）） 					
他10項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見					
当該区間は、「富岡～新地」間と一連の区間として整備され、常磐自動車道としてのネットワーク化が図られることにより、その大きな整備効果が発現されるものであり、地域の自立的発展や物流の効率化、また、東北縦貫自動車道の豪雪等による通行不能時の代替路線として、さらには近い将来想定される震災への対応や広域ネットワーク化による医療の高度化などを支援していくうえで早期整備を要望されている。（宮城県、福島県）					
事業概要図					
<p>The map shows the project area between Shinchi (新地町) and Yamamoto (山元町) in Fukushima Prefecture. It highlights the proposed expressway route (新規事業化区間 L=16km) and its connection to National Route 6 (一般国道6号). Key locations include Shinchi IC (新地IC), Yamamoto IC (山元IC), and the Arakawa River (阿武隈川). The map also shows existing roads like National Route 113 (一般国道113号) and the JR Tohoku Line (JR常磐線). A legend (凡例) defines the symbols for supply area, project area, improvement area, and other areas.</p>					

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。